

日毎日曜祭日翌日刊 一ヶ月二十五日 一ヶ月二十五日 一ヶ月二十五日

廿八區の連署を携ふ 平町區長代表の陳情

本月三、四日頃の模様 希望達成に某區長の談

平町民の安住を脅かすものと
して三萬町民に賦起された地
下採掘反對の陳情調印は各區
長の奔走で殆んど漏れなく連
署される同志の結束は茲一兩
日に全部取纏められるもの
如くであるが區長二十八名の
中から選ばれた代表者五名の
仙台鐵道監督局行きは来る三
四日頃になるらしく町民を舉
げての此の反對に飽くまで希
望を達成したいと某區長は左
記の如く語つた

地元の希望に動く 平中心の國道舗装

今日内務省土木局長出張 勿來から全線の調査

石城郡勿來町から双葉郡久の
濱町に至る平町中心の國道舗
装は隣縣茨城の沿線關係と相
呼應して地元民に運動中であ
るが同計畫に對しては東北振
興會に於ても必要と認められ
内務省では今日土木局長廣
瀬爲久氏を派して調査を行ふ
までに進展し午前九時で上野
を發し途中茨城に下車して自
動車を藉り勿來町から國道六
號線の改良工事計畫を踏める

東北大會制覇を 目指す磐中健兒

勇躍大會場福島に向ふ

郷土磐城の興衰を憂ひ断然東 縣下大會に東北大會の出場權
地大會制覇を期して勇躍福島 を獲得したと言へ組みし易
大會場へ向つた磐中健兒軍は した見た安中軍のために一敗

常識講座

ブラック、ハンドは黒
手組と云つて一つの秘
密結社のこと、伊太利
で無類の殺害が頻りに復
讐を目的に組織せるも
の、彼等から送る脅喝
的の手紙には必ず黒い
手の標章を附した

親子四人入り亂れ 方丈を血で染める

鹿島某寺の住職一家 事件遂に明るみに

鹿島村大字上藏字江名口圓福
寺待に假名住職石上孤仙師
(六)三男忠孝(三)同五男秀道
(二)の兩名は去二十九日午後
七時頃同寺庫裡の一室で些細
の事から口論を始め忠孝が弟
秀道を殴りつけたので老父孤
仙師、四男亮介の兩名が末子
の秀道に應援親子三人がより
で忠孝に躍りかかり打つ、蹴
る、毆るの大亂闘となつたが
遂に忠孝は頭部受傷左足骨折
の重傷を負つて昏倒したので
流石に放つて逃げ去秘かに平
町才地小路大内醫院に早急
込み應急手当を加えてゐる事
を駐在巡査が探知、孤仙師四
男亮介、五男秀道の三名を一

經濟更生指導者 受講者決定發表

郡内から十名銜衡さる

郡内經濟更生指導の各村では
何れも確固たる更生策を樹立
し、奮るの方面に互つて努力を注
いで居りその業績を見るべきも
の多いが今般發表された縣主
催經濟更生の指導者講習會が
来る三日から九日まで七日間
松井博士述

一票汚れる 國汚る

中央報徳會

本議員選舉の制限を以て之
を別法に議する者は蓋し選舉の
方法に時宜の必要を將來に見
るに從ひ之を補修するの便を
取ることをあんとす、故に憲
法は其の細部に涉ることを欲
せざるなり」と、畢竟するに
選舉の方法等は時代によつて

祭壇の前に正座 老婆剃刀で自殺

暑熱で發作的精神異状か 身より少ない淋しい生活

小林澤夫△平窪 敬治△
山田原理之助△好間鈴木敏
彌△渡邊村吉△井定雄△泉吉
田勝記△神谷村高橋市作

當時磐崎村大字藤原字一本木
天理教會大越ジ方居住栃木
縣那須郡七合村青木クマ(妻)
は三十一日午前十一時半頃ジ
の不在を見すまじ教會本殿
祭壇の前に座し細紐で兩腕を
結び鋭利な剃刀を以て自分の
咽喉部を掻き切り覺悟の自殺
を企てたが死に切れず苦悶し

超速度のトラツク 幼女を轢殺す

植田國道の大慘事

昨三十一日午前十一時半頃植
田町字本町佐藤久四郎方運轉
手植田四郎△がトラツクを
運轉中植田町の歸途植田町小
名田内國道を超速度で疾走
して来たため國道を横切らう
とした同町小名田木質宿久住
さい方止宿佐藤喜惣平長女ツ
ヤ子(五)さんの姿を約八間も
ギリで有名なるマコローが
候補に立つに際し「余は眼中
國家あるのみ、一地方の利害
問題を云々する事は、余の斷
じて爲し得ざる所なり、若し
諸君にして余を擯ぶことが國
家の爲になると思へば擯ばる
べきのみ、余は擯身して候補
たることは毫も顧みざる所な
り」と云つたことを讀んだの
を記憶して居るが、何たる男
性的の意氣であらう、我國の
候補者もかくありてこそ國家
の選良たるに恥ぢざる者云々

には可成りの財産があり長男
次男ともに學校を出て目下内
務省に奉職中で兩名とも眞父
の後繼者となる事を嫌つてゐ
るので殘る忠孝以下の三名兄
弟が自然財産をめぐつて醜い
暗闘を續けてゐたもので老父
孤仙師は忠孝との折合が頗る
悪く四男五男の兩名を可愛
がつてゐたため平素から家内
不和であつた、尙村内では此
の親子兄弟の醜い争闘を見せ
つけられてゐるので一部には
排撃の聲も上がつてゐた程で
ある

牛乳協會總會
平管内に於ける牛乳採取業
者から同協會では来る三日午
前九時から同協會禮堂に於て
開催されると

郷土史抄

故濟先生の遺影を憶ふ

瀧川家の史料採訪
鮫川 漁 史

予が初め、近代の磐城人物中より、特に人格、學識の併備せる縣政治家を發見せうとして、餘り世に知られぬ瀧川先生の如き求め得た時の感と又同家の史料を採訪したる後の感とは同一で、寧ろ始めの想像よりも偉大なるを知るに至り、予は甚だ我意に的中し、欣快措く能はず、此に彼の遺稿を整理中、其の傍ら大凡その事歴を、郷土の内外に紹介してみよう。(詳傳の一部は隨筆的に磐城公友で連載の予定)

(一)人と爲る一端と其の志行

先生は泉藩醫師瀧川太仲二男(異本には明とあり何れが真か)天保十一年月の生れである。長ずるに及んで安井息軒に學び、業成り歸藩して大目付支配授講方(和漢の講義ならん)に擧げられたが、金祿は僅かに一人扶持の微士に過ぎなかつた。先生が息軒の熟舎に在つた時最も親しくした同門の士を序いでに例出すと、

谷干城 渡邊昇 三浦安
照田清綱 増戸武平 柴原和 土岐裕 三好退蔵 柳田直平 龜谷行 安藤太郎 澁谷啓藏 山井幹六 石井重倫 松木豊多 小篠次郎 石幡貞 牧田義雄 澤村則辰等で、其等の友人は後世何れも國家的重要な人物と爲つたのが多い。維新前後より晩年までの知己、友人の關係は追て列示する。

彼れの父祖、兄方に就ては系圖、家記が散失した爲、詳しく分らず、又當主ウノ子にも能く知らないので、少しく物足りないが、同姓の一善、一正、稻水、濟等皆父子兄弟で内一善は號を關北、或は鮫水と云つて經史、詩文を能くし其の遺稿には「鮫水詩草」がある。又一正は明治新政の際泉藩少参事に推んでられ、稻水は菊多郡第一回選出縣會議員となり、濟は補缺に當選、衆望の下に縣會副議長に擧げられた。

牛も豚も優良品の自慢

肉の御 三三屋 平町 田町
用命は

清爽簡易な
サンマードレス
婦人用とお子さん用
各種、華やかに陳列
中元贈答用品...各種

ツルヤ
平四 電一四〇

お醤油は ヤマフル

醤油味噌
たひら正宗
鯉節食料品

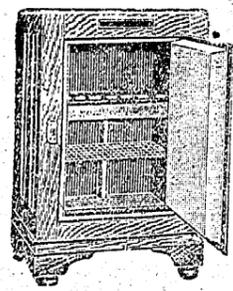
山崎合名會社

電話 一〇七〇番

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

冷却力が永久に衰へず
いつまでも使へる冷蔵庫

冷蔵器は一と夏や二た夏で構造に狂ひが来て冷へ方が弱る様では眞の文化的重寶と云はれません、其所で木材を最も廉價しそれを完全なる設備の下に數年間十二分に乾燥して使用する、丸はん冷蔵器は絶対に狂ひを生ぜず永久によく冷へる經濟的冷蔵器として御愛用の皆様の間に古くから多大の御信用を博して居ります。



岩谷冷蔵器の代理店も致して居ります

油問屋 關内油店
電話長 16

ガソリン モビール油 日本株式會社 石油株式會社 特約販賣

農村の更生振興に 天然加里肥

最も適應する作物!
蔬菜 馬鈴薯 里芋 しやうが類
瓜果類ではトマト 茄子の如き比較的病害に弱い作物に施用すれば抵抗力を與へ落果を防ぎます
天然加里肥は酸性でないから如何に施用しても土壤を感變する虞は絶対にありません

一俵 廿五錢

製造販賣 金成國雅
平町鎌田 電話 六八八番

貨物自動車の御用命に應じます

石炭 平町郵便局通り
コークス 水野石炭店
豆炭 電話 二九九番

目科療診
一、齒科 一般
保存科、補綴科、鑲齒工科、齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿瘍科、レントゲン科

中野齒科醫院

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠
平町出町(松月堂向ひ) 電話五〇九番

(磐城共濟病院)

內科 院長 醫學博士 石山 謙
小兒科 部長 醫學士 藤 尚輔
産婦人科 部長 醫學博士 五十嵐 雄二
外科耳鼻咽喉科 部長 醫學士 大町 久藏
皮膚泌尿 部長 醫學士 山澤 謙
器病科花柳病科 部長 醫學士 前山 謙
X線科 部長 醫學博士 石山 謙
藥劑科 部長 藥劑師 鈴木 本孝
事務局長 鈴木 本孝
(每日午前八時より午後十時迄診察) 病室完備 入院隨意

Advertisement for 'Sankyo' (三幸) featuring various products and services. The text is stylized and includes the name 'Sankyo' prominently.